

## キャンプに対する高齢参加者の意識 [ 2 ]

— 事前事後における不安の変化を中心として —

○中島一郎（国際武道大学）

篠田基行（国際武道大学）

キーワード：高齢者，キャンプ，意識，不安

### 【はじめに】

前回の第1報(1990)では、高齢者キャンプ実施上の阻害要因として関与している部分があると考えられるキャンプ参加に対する高齢者の意識について、不安や心配を中心として分析を試みてみた。その結果を要約すると以下のものであった。

- ① キャンプ自体に対する興味の程度は総じて高く、特に女性に顕著であった。
- ② キャンプ参加については概ね積極的な姿勢がみられ、70歳以上群を除いて興味の程度と相関的な関係にあった。
- ③ キャンプ参加に対する不安・心配の程度は「無し」とする者が過半数を占めたが、明らかに過去のキャンプ経験の程度と密接な関係にあった。
- ④ キャンプ参加に対する不安・心配の具体的内容は身体面及び生活面でのものが多く、身体面では既往症に関するものが中心となっており、生活面ではテント泊や飲食、施設に関するものが中心となっていた。

そこで本報告では、対象者を変えて同様の調査を継続すると同時に、キャンプ経験後にキャンプに対する参加高齢者の意識がどのように変化するのかに焦点を当てた分析を試み高齢者キャンプ実施上の基礎資料を得ることを目的とした。

### 【方法】

- 1) 調査方法：キャンプ実施前（オリエンテーション時）及びキャンプ実施直後において、質問紙法によるアンケートを実施した。
- 2) 調査対象：千葉厚生年金休暇センターにおいて開設されている「老人大学」（厚生省保険庁依託事業）健康指導教室の学生89名（男：32名，女：57名）を調査対象とした。また統計上、参加者を60～64歳群（27名：30.3%）、65～69歳群（42名：47.2%）、70歳以上群（20名：22.5%）に分類した。また、キャンプ実施前の回答者は73名（82.0%）、実施直後の回答者は89名（100%）であった。
- 3) 期日：1991年8月8～9日 1泊2日
- 4) 場所：千葉県立鶴舞青年の家月出野外活動施設
- 5) キャンプ概要：スタッフは健康指導教室指導スタッフを中心に構成され、参加者は男女混合の10～12名を1班とする計8班で構成された。キャンプは野外炊事、テント泊を中心とする原始的キャンプの形式で行われ、主なプログラムは各種ゲーム・ダンス、キャンプファイアー（キャンドルサービスを含む）、ウォークラリー等であった。
- 6) 調査項目：事前の調査では過去のキャンプ経験、キャンプ参加への積極度、キャンプ参加への不安度とその具体的内容を主な調査項目とし、事後の調査ではキャンプへの興味の变化、キャンプの満足度、不安の変化等を主な調査項目とした。
- 7) 分析方法：第一次集計として各設問の単純集計を整数及び%で算出し、第二次集計として各設問間のクロス集計を同様に算出した。

## [ 結果 ]

### 1. キャンプ実施前の調査結果

キャンプ実施前の調査結果については、経験度、積極度、興味度、不安度、不安の具体的内容のすべての項目において概ね前回の第1報と同様の傾向を示していた。

### 2. キャンプ実施直後の調査結果

#### ① キャンプの満足度

今回のキャンプに対する満足度については、全体では満足派（「満足」＋「満足した方」）が78名(87.6%)を占め、不満足派（「不満足」＋「不満足な方」）は1名(1.1%)にすぎなかった。男女別では、女性の満足派(93.0%)の多さが目を引き（男:78.1%）、年齢別では年齢層が高くなるに連れて満足派の割合が減少する傾向にあった。

#### ② キャンプに対する興味の変化

全体では、興味増大派（「大いに増した」＋「少し増した」）が68名(76.4%)と大多数を占めたのに対し、興味減少派（「少し薄れた」＋「全く薄れた」）は6名(6.7%)にすぎず、男女差もほぼ認められなかった。

#### ③ キャンプに対する不安の変化

「キャンプ前同様に不安や心配はない」34名(38.2%)、「キャンプ前の不安はほとんど解消した」33名(37.1%)、「キャンプ前の不安のいくつかは解消した」10名(11.2%)の肯定的な意味合いのある3回答で大多数が占められ(86.5%)、否定的な意味合いのある回答については、「解消された部分と新しく生まれた部分がある」7名(7.9%)、「キャンプ前はなかったが新しい不安が生まれた」2名(2.2%)、「キャンプ前の不安はほぼそのまま解消していない」1名(1.1%)、であった。また、「キャンプ前同様に不安や心配はない」（男:53.1%、女:29.8%）、「キャンプ前の不安はほとんど解消した」（男:18.8%、女:47.4%）の2選択肢において明らかな男女差が認められた。解消した不安の具体的内容についてみると、人間関係や精神面での不安の解消を指摘する回答が最も多くなっており、生活面（施設・設備を含む）、身体面の順となっていた。

## [ 考察 ]

キャンプの評価指標の一つとも言える参加者の満足度が高かった点については、自然の中での集団宿泊やプログラムへの感動、人間関係の深化・拡大がその大きな要因となっていることが感想文の中から伺い知ることができた。この満足度の高さがキャンプに対する意識に大きく関与したことは容易に想像でき、キャンプ自体に対する興味が増大したことに結びついたと思われる。不安の結果については、事前調査ではあまりみられなかった人間関係面での不安の解消が比較的多く指摘されていた点が特徴的であった。今回のキャンプの参加者は事前に8回の健康指導教室に参加しており人間関係はある程度できているわけだが、「老人は変わり者や偏屈者が多い」という意識が高齢者自身にかなりあり、その意識がより親密な関係が要求されるキャンプの実際場面において出てきたことがその一要因として考えられる。また身体面や性格的な面で集団生活についていけるだろうかという不安についての解消も比較的多く指摘されていたが、これは事前の健康指導教室参加によってできた体力や人間関係がキャンプにおいて効果的に発揮されたことによるものと推察される。いずれにせよ高齢者を対象としたキャンプについては、興味の高さ、不安の程度及び内容、等の点からもその効果は大いに期待できると言えよう。